



僕の後に道はできる

過去, 今, そして未来



御在所岳山頂に登るコース

みなさんは、御在所岳に登ったことはありますか？御在所岳の山頂に登るコースはいくつかあって、一番楽なのはロープウェイを使う方法。これはお金がかかります。他にも、切り立つ崖をロッククライミングで登るコースや小学生でも登れる比較的平坦なコースなど、全部で8通りのコースがあるようです。

ロープウェイを使うと時間は早いし体力も使いません。空中からの壮大な景色が眺められます。険しいコースは、力も体力も使います。でも登った時の達成感が一番でしょう。平坦なコースは、じっくりと時間をかけて登ることになります。途中で動物に出会ったり、きれいな草花を見つけたりすることもできるでしょう。



ひとつ言えることは、どのコースを通ってもゴールは同じです。意志さえあれば、誰もが山頂にたどり

着くことができます。ロープウェイが得で足で登るのが損というわけではありません。それぞれ得るもの（経験）が違うのです。登るのをあきらめなければ、どのコースであってもゴールにたどり着くのです。

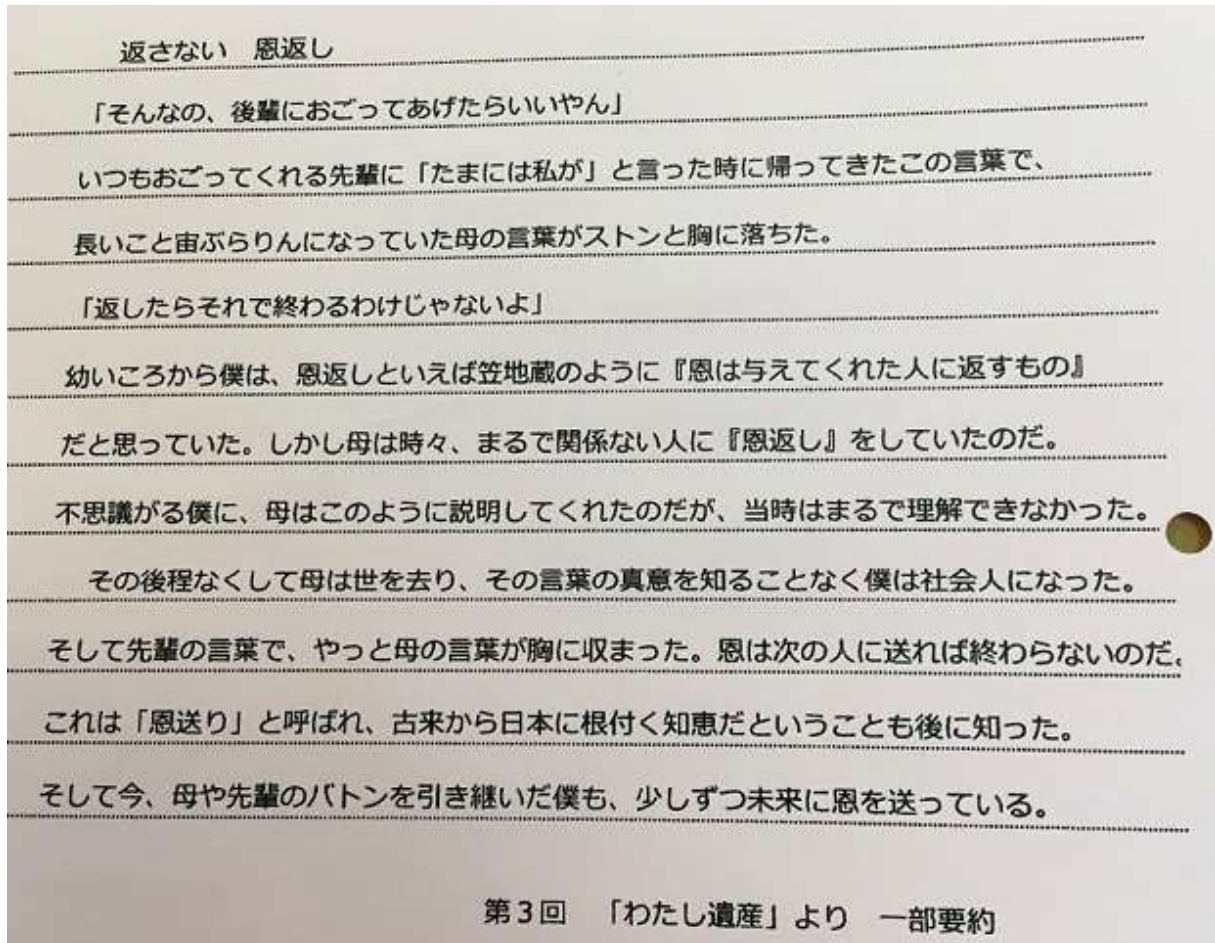
経験・・・それはピースを集めること

橋北中だよりNo.17で、「経験とはピースを集めること。」という話をしました。一つ一つのピースを集めることで、それぞれの絵が完成します。そのピースは、グレーだったり涙色だったりすることもあるでしょう。でも、将来ふり返った時、そのグレーや涙色のピースは、あなたの人生という絵の中で決して外せない重要なピースであったことがわかる・・・そんな日がきっと来ます。過去は変えられません。未来はどうか分かりません。だからこそ、今が大事になってきます。今、この瞬間のあなたの行動で未来が変わります。将来、「ああ、あの経験は役に立ったな。」と思えば、どんな経験（ピース）もすべて無駄ではなくなります。ほんの少し立ち止まってもいい。でもまた、登り始めて欲しいと校長室で思っています。

恩送り

伝えたいことなので、再度掲載します。

「恩送り」について橋北中だよりに書いたのは、もう一昨年のこと。この言葉を知っている 3 年生が卒業してしまうので、もう一度書くことにしました。



中学生の皆さんも、先輩や友達に助けてもらったり、親切にしてもらったりするでしょう。その時、うれしかった気持ちを思い出して、今度は私が別の友達や後輩を助ける。これが「恩送り」です。

助けられた、手伝ってもらったことに感謝をするだけでなく、その行為を別の人に返していく・・・それがどんどんつながっていけば、橋北中は、とてもいい学校になると思いませんか。

個々のご意見に関わって その2

「1 学期中間テストをきちんと実施してください。体育祭、文化祭をきちんと実施すべき。コロナを理由に子どもたちの行事を縮小しないでください。」

行事の縮小をさみしく思うお気持ちは、よくわかります。職員の中にも同様の考えを持つ者もいます。まず、1 学期の中間テストの廃止はコロナが要因ではありません。大きな行事が多い 1 学期に、テストをなくすことで生徒の負担を軽減することが目的です。その分、6 月のテストを中旬までには実施し、テスト範囲が広くならないように工夫しています。身に付けさせたい力を考え、教育内容を精選してカリキュラムマネジメントをしています。

体育祭の内容の縮小はコロナ対応です。ご存じの通り、スポーツ、コンサート等、催し物の人数制限や感染症対策は日本中で行われており、それに倣ったものです。文化祭については、大きく内容は変わっていません。

今後も、「何が 1 番大切なのか。」を見極め、時代に合った方法で効果的に教育を行っていきます。